

会報

冬季研修会より

2月21日(金)に、初めてのライブ配信で開催されました。

講義1「本県の健康課題と養護教諭の役割」

福井県教育庁保健体育課 学校保健安全グループ 濱野 佳子 氏

【学校保健における最新情報】

(1)健康診断

令和6年9月18日付文部科学省通知「学校保健安全法に基づく児童生徒等の健康診断の実施に当たって留意すべき事項について」では、これまでに出了された健康診断関係の通知や事務連絡がまとめられている。



(2)健康観察

健康観察は、教育活動全体を通して全ての教職員で行うもの。養護教諭は、子どもを見るポイントや健康観察の留意点を職員に伝え、保健室来室時の様子など担任とは異なる視点から捉えた情報を、先生方と共有するとよい。ICTを活用している学校では、もう一歩進めて集めたデータを活用し、気になる子どもたちに個別に声かけをしてみるように。

(3)疾病の管理と予防

子供たちが安心して学校生活を送ることができるように支援することが求められている。

- ・近視について解説した資料は、8月に通知済み。HPからダウンロードし活用を。
- ・学校で緊急時に使用する医薬品を扱う場合、養護教諭が中心となり、感染症防止対策と児童生徒への個別の配慮や対応を行うように。教職員全員で対応する際には、研修も大切。

【次年度に向けて】

次年度も子どもの目と歯の健康プロジェクトを継続。来年度の年間計画に位置付けて、年間を通しての取組をお願いしたい。

・外部講師活用

- ①がん教育 ②薬物乱用防止教室 ③小学校救命教育実施支援事業

・福井県教員育成指標

今年度、全体の項目を見直した。養護教諭には、養護教諭の専門領域としての5項目の指標を具体的に記載。経験年数に応じて、どのような力が求められているのか、専門職としてのスキルを身につけるための指標として確認するように。福井県教育総合研究所のHPに掲載。

【今年度のまとめと来年度に向けての計画】

自校の健康課題は何か、その課題解決のためにどのような計画で活動を進めるのか、学校保健計画に盛り込み、学校全体で取り組めるよう、教職員、学校三師、その他関係機関などと連携しながら進めていくように。

講義2「摂食障がい支援拠点病院について」

福井大学医学部附属病院 神経科精神科 特命公認心理師 水野 有香 氏



- ・学校保健統計からやせ型の子どもの増加が明らかになっている。各校において、児童生徒が低体重でないかのチェックをお願いしたい。
- ・摂食障がい支援拠点病院には治療支援コーディネーターが配置されており「楽しく食べるを取り戻す」を治療コンセプトに学校と医療がよりよく連携できるよう支援している。

研修「学校現場における救急処置について」

福井大学医学部附属病院 救急部助教 山田 直樹 氏

事前にとった質問事項を中心に講演をいただきました。「Slido」というツールを使い、質問に随時答えていただいたり、会員が投票した結果をすぐに見られたりするなど、勤務校にいながら講師の先生とコミュニケーションをとることができ、ライブ感のある研修となりました。

【主な内容】

- 鼻血が止まらない場合の受診の目安 ○「複雑性熱性けいれん」「てんかん」の対応
- 盲腸 ○過呼吸の手当 ○パルスオキシメーターの使い方 ○精巣捻転
- インフルエンザの受診 ○傷の処置 ○頭部打撲 ○救急車の要請等
- 皮膚接合用テープ ○人に噛まれた場合の受診 ○骨折疑い時の受診
- 顔面強打の場合の受診 ○首の痛みに対する応急処置 ○突き指の固定 ○外反捻挫
- トリアージの時の注意点 ○アナフィラキシー時の注意点 ○コンタクトの目の中のずれ
- 体育で使用するマットによる蕁麻疹 ○皮膚の異常に対する応急処置 ○年代別のバイタルの数値



【感想より】

- ・救急処置について、改めて再確認できたこと、最新情報にアップデートできたことが両方あり、とても勉強になりました。Slidoを活用して、オンラインでも参加型の研修になり、主体的に学ぶことができました。
- ・救急処置の研修は大変参考になった。今後も定期的に救急処置についての研修を受けることが必要だと感じた。

健康教育推進のための意見交換会

開催日 令和6年12月24日(火)

出席者 保健体育課 2名、小・中・高教研部会長、研究会役員 4名、職務研究調査班班長

報告内容

(1) 子供の歯の健康プロジェクトの取組に関する調査集計結果より

(2) 支援が必要な子供と保健室の関わりについて

(保健室利用状況調査、令和6年度前期と過去との比較から)

意見交換

- ・どの学校もう歯の治療を勧める努力をしているが、治療が後回しになっている現状がある。
- ・相談活動については、スクールカウンセラーは常時配置ではないため、養護教諭が基本的に対応していることも多い。このような現場の負担感を、どのように見える形にしていけるかが今後の課題である。



役員退任あいさつ

役員として2年間、本研究会の運営に携わせていただく中で、常に責任の重大さと自分自身の力不足に不安を感じておりましたが、他の役員や理事、専門部の先生方、そして会員の先生方のご理解とお力添えのおかげで、なんとか終わることができました。「なかま」で集い、「学びあう」ことのできる本研究会は、まさに私たちの原動力です。今後も本研究会の一員として、今回の経験を活かしながら職務に励みたいと思います。今まで本当にありがとうございました。

令和6年度 会長 牧田 りか (福井県立科学技術高等学校)

スリム化の流れと、対面で学ぶ良さを実感した2年間。コロナ禍を経て新たな風が吹く本会の運営は、それまでの慣例を見直す勇氣ある作業のくり返しでもありました。本会がよりよい学びの場であるようにという願いは皆同じです。真摯に仕事に取り組まれる若い先生方、新鮮な発言で会議を動かされる中堅の先生方、深いお知恵で見守ってくださる経験豊富な先生方、会員の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

令和6年度 副会長 水野 恭子 (福井市成和中学校)